

アピール1

学祭の主人公は法大生・サークル員だ！

この4年間だけでもこんなに規制や規則が一方的に押しつけられてきました。「学生は大学の言うことに黙って従え」—これが当局の本音なのです。そもそも考えてみて下さい。学祭を企画し、盛り上げ、責任をとっているのは誰なのかということ—法大生でありサークル員です。学祭の主体が規制に対して声を上げること、意見を言うことは当然のことです。学生のエネルギーとパワーを無限に発揮させる場が学祭です！

学祭の主人公として規制には声を挙げていきましょう！ 全サークルで団結すれば必ず変えることはできます☆



08年度学祭で、盛りあがるキャンパス。これが学生のパワーだ。

※吹き出しとコラムは、6月11日の学祭説明会での学祭実と洞口朋子さんのやりとりです。

学祭実



規制は全て
学生のための規制です。

増え続ける規制…

この4年間で進んだ学祭規制…

- ◆学祭期間短縮
- ◆相互休講廃止
- ◆飲酒規制

加えてサークル規制…

- ◆新歓期間短縮
- ◆学生ホール解体
- ◆部室の会議室化etc.

なぜ学生が「ルールを守る人守らない人」って対立させられなければならないのか？
これでは当局の思うツボです。学生はいろんな問題が起こっても自分たちで解決する力を持っています。

※サークル員が描いてくれた洞口朋子さんの絵



現場からの声で学祭規制ぶっとばせ

アピール2

学祭実ではなく サークル員の方を向くべきだ！



当局が言う施設管理権の明確化に異論はありません。



これだけ当局からも学祭実からも「施設管理権」「施設管理権」と言われればそりゃ学生だってやりきれなくなるでしょう。学生の「自主」と大学の「施設管理権」は非和解なんです。本来ならば学祭実とはサークル員と法大生の利害を体現する立場に立つべきではないのか？学祭実とは法大生の方を向いてください。

昨年度から学祭実とは「施設管理権」を振りかざしています。施設管理権なんて学生が黙って認めている限りにおいて成り立っているにすぎません。依拠すべきは当局ではなく、サークル員の力です！サークル員が結集したときに生み出される創造力と独創性に勝るものはありません。

アピール3

学祭企画から社研を排除するな！ —社研排除と不当処分で規制は成り立っている—

これらの規制は社会科学研究会の学祭企画からの排除と社研サークル員である齋藤君（文連委員長・法2）の退学処分と倉岡さん（人3）の処分の上に成り立っています。であるからこそなんとしても処分を撤回させよう！ 社研排除には全サークルが声を挙げて下さい。「一人の仲間も見捨てない」文連とともに声をあげよう！



↑正門前で署名数を掲げる齋藤君、倉岡さん、洞口さん



社研排除を認めたら他のサークルだってどんどん規制されるのは目に見えている。1つのサークル企画も排除させないと、この場で約束してほしい。社研もがんばりますからみなさん団結して自主法政祭を成功させていきましょう！